

**2011年度 学校法人梅花学園事業計画書**

**2011年3月26日**

**学校法人梅花学園**

### 梅花学園の建学の精神

キリスト教精神に基づき、他者への愛と

奉仕の精神を備える自立した女性を育成する

### 教学の理念

梅花学園は、キリスト教精神に基づき、人間として自分の生きる道を見出してその道を歩む力を身につけると共に、多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ人を育てる。さらにのびやかな感性を養い、調和のとれた知性をもって社会に適応すると共に社会に貢献する人が育つように努める

### スクール・モットー

人にしてもらいたいと思うことは何でも、  
あなたがたも人にしなさい。

(マタイによる福音書七章十二節)

## 2011年度学校法人梅花学園事業計画

全国で4割以上の大学が何らかの学部で定員割れとなっています。また、厚生労働省の人口動態調査によりますと、2010年の出生数は1947年以降、過去最低の1,070,035名であります。今後、学校法人を取り巻く環境はますます厳しくなることは必定です。

このような構造不況業界にて、熾烈な学校間競争に勝ち、教育研究の永続的発展をなし得るためには、梅花学園の全構成員が英知を結集し、一致団結して戦う以外に道はありません。

### I. 経営の基本方針

建学の理念であるキリスト教精神に基づく人間教育の実践を基盤として、

1. 教学の充実と学生・生徒・園児への各種支援・サービスを充実し、満足度の向上を図る。
2. 法人設置の各学校においては独立採算をめざしつつ、法人全体として総合経営を行う考え方を採り、学園収支を改善し、財政基盤の強化を図る。
3. 常に中長期を見据えた新規施策の策定を進める。
4. 職員の職能アップや組織間連携の強化を通じて経営力・ガバナンスの強化を図る。
5. 情報管理を適正に行い、情報公開を進め、学内外に対し経営の説明責任を果たす。
6. 外部の情報、とくに他校の情報を積極的に収集し、これを参考に先進的な時代の要請に対応した戦略に基づく経営を推進する。

### II. 学園改革への取組み

1. 学園の経営戦略を中長期的視野で策定し、実行可能なものから実施に移す。
  - (1) 建学の精神に則った設置各校の教学改革の具体策を設定する。
  - (2) 設置各校の学生・生徒等募集を軸とする具体策を策定し、即時実行する。

特に大学・短大部においては既存学部・学科の学生確保に努める一方で、引き続き全体構造の改善に資する学部・学科改組に取り組む。
2. 設置学校毎の改革のために、前年度に策定した各学校のグランドデザインに基づく具体策の実行を進める。また、2011年度においてはその実施状況と効果を点検してグランドデザインの改善を図る。
3. 設置学校毎の独立採算性を重視し、費用対効果の徹底を図る。
4. 設置学校毎に各種危機管理の強化を図る。

### Ⅲ. 事業計画の概要

#### 1. 教学充実、学生・生徒・園児支援の取組み

##### (1) 大学・短大部

学生たちの能力、個性を十二分に伸ばし、教育目標を学生一人ひとりにおいて確実に具現させる真の教育力を持つ大学にする。

##### ① 新学部・学科の設置準備

- 1) 「現代食文化学部食マネジメント学科」(仮称)の2012年4月の設置に向けた準備を進める。
- 2) 「現代食文化学部食マネジメント学科」(仮称)に続く新学部・学科設置の検討に入る。

##### ② 更なる教育内容の充実

教育支援開発センターを中心として、入学前教育、初年次教育、キャリア教育の内容の一層の充実を図る。

- 1) 入学前教育は、入学前に確保すべき学力レベルを全学的に確認し、まず日本語能力の向上に関するプログラム策定の検討を進める。
- 2) 大学設置基準の改正を受けて、以下の各学年の目標に従い、実践的な就業力育成に結びつく正課授業の導入を検討し、キャリア教育の一層の発展を図る。
  - ・ 1・2年次⇒初年次教育における就業意欲の育成
  - ・ 2・3年次⇒実学的専門教育の導入による就業力育成
  - ・ 卒業年次⇒就業前プログラムによる実践的能力の育成

##### ③ 教育の質の向上

各学部・学科が掲げる教育目標の到達度を検証する制度の確立およびファカルティ・ディベロップメント活動(以下、FD活動)の活性化等を通して、教育の質の向上を図る。

- 1) 各学部・学科が掲げるディプロマポリシーに基づき、どのような能力を育成するのかという、より具体的な教育目標を設定し、その目標に従ったカリキュラムマップを作成する。
- 2) 上記カリキュラムマップに従って、各学科および各授業は年間の具体的な教育目標を設定し、学生にもそれを周知させつつその到達度を毎年検証する制度を確立して、FD活動に役立てる。
- 3) 教員の様々な領域における活動能力を高めることで、大学全体の教育能力の向上・活性化に資するため、教員(自己点検)評価制度の導入の検討に入る。

#### ④学生支援

- 1) 出席管理システムやアドバイザー制度などを有機的に連動させることにより、2011年度の退学・除籍者割合の改善を目標に、きめ細かな学生支援と関連部署間の情報交換を徹底させる。また、この一環として新入生歓迎レセプションを実施する。
- 2) クラブ活動に対する財政的支援を行うことで、課外活動参加率を引き上げ、キャンパスの活性化を図る。

#### ⑤授業週5日制への移行の検討

クラブ活動のほか、学生の多様な活動の機会拡大のため、1週あたりの授業日数を5日とする方向で検討に入る。

### (2) 高校・中学

建学の精神に基づいて行う教育活動を、生徒・保護者らと連携しつつ、より良いものへと磨きあげていく取り組みを行う。外部からの評価等に積極的に耳を傾け、また、指導法に関する研修なども行いつつ、高い教育力を持って社会の期待に応える学校づくりをめざす。

#### ①キリスト教の精神を基盤とする教育活動の充実

コミュニケーション能力を高め、円滑な人間関係を構築し、真に社会貢献のできる、人間性豊かな自立した女性の育成をめざす。そのために、全教職員が建学の精神を共有し、日々の教育活動に活かすことができるようにする。

#### ②学校評価の実施

教育力向上のために、学校評価の取り組みとしてこれまで実施してきた教員対象のアンケートを改良しながら、問題点を点検し、改善策を実施する。また、外部評価の実施についてはさらに検討しなければならない。

#### ③家庭との連携強化

教育活動において、保護者の協力・理解は不可欠であると考えられるので、各家庭との連絡を密にする。PTAと協力し、災害や不測の事態の緊急連絡の方法として、緊急メールを導入し活用する。

#### ④進路指導の充実

すべてのコースにおいて進路指導の充実を図る。一貫特進コースにおいて、6年間のスパンで、先取り教育など効果的な学習を行い、進学実績を上げる。また、キャリアプランニングの時間を新たに設け、メンタルトレーニングなどを実施して、進路指導を充実させる。高校3年間を通して進路関連行事の指導カリキュラムを精選し、確立する。また、教職員の研修を実施し、組織としての確に指導する。

#### ⑤校内全面禁煙の実施

受動喫煙防止策と、喫煙防止教育の推進のため、敷地内全面禁煙を実施する。

### (3) 幼稚園

教職員の保育力を高め、園児・保護者をはじめ地域社会からの信頼を強固なものにするため、教育研究や諸施策の充実を図る。また、併設の各学校機関や地域社会との連携強化により、幼稚園としての機能をより一層高めるなど総合力の向上を図る。

#### ①教師の保育（力）向上

キリスト教精神に基づく本園の教育理念に対する各教師の理解を深め、月1回の園内研究会および他園保育者を招いての公開保育研究会の実施、また各機関の研修会への参加により、教師の保育力向上に努める。

#### ②保育関係者間の連携強化

幼稚園教員免許取得が可能な児童文学科および、こども学科との連携を取り、本園の幼児教育観を充分学生に伝え、幼児教育に対する知識を深め、共通理解の基で相互連携を図れるよう努める。

#### ③子育て支援の強化

預かり保育の日時延長およびキンダーカウンセリング等の専門分野からの支援を充実させ、本園のみならず広く地域親子の子育て支援にも貢献する。

## 2. 志願者増対策

募集対策の見直しと強化を通して入学志願者の増加を図る。

各設置学校において、これまでも学生・生徒・園児募集対策を行ってきたが、その成果は必ずしも期待通りの効果をあげていない。次年度も募集活動の手を緩めることなく、これまでの募集活動を根本から見直すことも含め、他校に負けぬい募集活動の実施をめざす。

### (1) 大学・短大部

#### ①パンフレット

受験生に分かりやすく、訴求効果のあるものを作成する。文字情報だけに頼らず、図や画像をバランスよく取り入れて視覚効果をあげ、また進学相談会や進路指導室訪問時に分かりやすく説明できるものにする。

## ②オープンキャンパス

春開催、夏開催、冬開催と全開催数を増やすとともに、参加者に活気あるキャンパスを提供する。全教職員一丸となって参加者の対応に当たるのみならず、新しく組織された「学生広報スタッフ」を前面に出し、在学生と参加者との良好な関係を構築する。

## ③進学相談会への参加

関心者と直接対話できる進学相談会の参加を継続する。相談会では直接対話において、第1接触となる来場者が多いことから、パンフレット等を活用しながら、本学の魅力、入試制度を関心者目線に立って伝える。また、オープンキャンパスへの来場を促し、来場してくれた関心者へのフォローに努める。なお、参加会場・地域等は過去の実績等を検討し効率的に参加する。

## ④高等学校との連携強化

3名からなる高校訪問専従者を中心にして近畿圏の高校を重点的に訪問する。オープンキャンパス、指定校推薦、公募制推薦、一般入試の案内あるいは結果報告と機会あるたびに適切な時期に適切なタイミングで訪問する。それ以外にも、電話・はがき等による接触を図り進路指導部の先生とのより深い信頼関係を構築する。

梅花高校においては、キャンパスへの招待イベントや豊中キャンパスでの入試説明会を複数回開催し学内推薦者数の安定を図る。また、生徒への入試説明会以外に梅花高校の先生に対する説明会も開催する。

## ⑤塾との関係強化

塾対象の説明会を開催し、必要に応じ参加塾とのコンタクトをとり、梅花の広報を展開すると同時に、信頼関係を構築する。

## ⑥祝日授業日の学校見学会

後期の祝日授業開催日に学校見学会を開催し、キャンパス案内、大学説明、さらには通常授業の見学等を通して、受験生のキャンパス生活への不安の軽減とさらなる関心度UPをめざす。

## ⑦ホームページの展開

学内外の情報の拠点としてのホームページ重要性およびその即時性を活かし、オープンキャンパス情報、入試情報等のリアルタイムな情報発信を心がける。また、メールマガジン等を定期的に発信する。

## (2) 高校・中学

### ①中学入試プレテストの実施

塾との連携強化のため、教育相談を実施する。また、プレテストによる個別相談も実施する。

②外部相談会の実施

5月、6月および7月の3回、本校独自の外部相談会（学校説明会。単独で開催）を実施する。

③塾説明会の充実

年2回実施している塾説明会に加えて公文塾長説明会を行う。年3回実施する。

④ダイレクト・メール広報の徹底

イベント毎のチラシ，ポスターを作製する。

- ・塾・公立中学校へ送付する。
- ・名簿登録個人には各回送付する。

⑤公立中学校・塾への訪問の効率化

公立中学校は過去の受験者動向から重点校を設定し，訪問する。

塾は過去の受験者動向から重点地域を設定し，訪問する。

⑥フォロー・コールの徹底

外部相談会参加者へ電話での行事紹介する。

行事参加者への出願直前の電話を徹底する。

⑦ホームページの刷新

2010年4月にホームページを刷新したが、2011年度はさらに改良を加えて、より受験生・保護者に、イメージアップを図るために更新する。

⑧小学生対象の公開講座の拡大

2010年4月に開講した小学生対象の公開講座（英会話・バスケット・バドミントン等）を、生涯学習と連携して、拡大を図る。

**(3) 幼稚園**

①ホームページによる積極的な広報活動

保育の様子やその内容説明を通して、本園の教育方針に理解を求め、保護者の入園意欲を高めるよう努める。

②未就園児クラスの充実

次年度3年保育入園対象である未就園児親子が活動に満足し、入園に向けて意欲的になれるよう、園教員と未就園児クラススタッフとが、しっかり連携をとり、充実した未就園児教室の運営を図る。

### ③自己点検・自己評価

自然をはじめ、さまざまな環境を通して総合的に行っている幼稚園教育の具体的な内容や、子育て支援および預かり保育等の幼稚園独自の取り組みについて、保護者や地域住民が理解しやすいよう、積極的な情報提供並びに評価の公表等の充実と改善に努める。

### ④地域との連携強化

課外活動（在園児クラブ活動・小学生サークル活動・母親教室）のより一層の充実を図り、在園児クラブ活動については専門講師を招聘し、園児が興味をもってそれに参加し技術的にも向上を目指していけるよう、又、小学生サークル活動や母親教室については園内に留まらず、地域からの参加者も多数受け入れるべく、広報活動の強化に努める。

## 3. 財政健全化への取組み

財政基盤安定化のためには将来にわたって優秀な学生・生徒・園児の確保が必要であることは言うまでもない。2011年度においてはこの目標に実現のために、積極果敢に行動し経営安定化を図る。

このために前掲のとおり、志願者増対策としての計画を着実に実施し、設置学校ごとに入学定員（募集定員）を確保する。

一方で、教育の質を維持・向上させつつ、より効率的な学校運営のための改善に取り組み、財務体質の強化を目指す。本学園各学校教職員は本学の現状を認識し、これを克服することが最重要課題であるとの意識を高め、各職務の改善に努める必要がある。

### (1) 収入増対策

#### ①補助金の積極的獲得

各種補助金については申請可能な分野を洗い出し、教職員一丸となって積極的に申請を行うことで、補助金収入の増収を図る。

#### ②寄附金募集の強化

在学生・新入生・保護者を対象に募集依頼を郵送し寄附への協力を呼びかける。また、ホームページにも掲載し、幅広く募集する。

さらに、学園創立135周年を控えて、周年記念事業計画と、これに伴う寄附金募集計画の策定に着手する。

### (2) 費用対効果の徹底

早期の収支均衡化をめざし、収入増に直結する学生・生徒・園児の確保に係る事業や教学充実・学生サービス向上につながる事業には資金注入を積極的に行う。

一方で予算編成・予算執行の各段階では従前にも増して厳格な姿勢で臨む。

①一般予算及び特別加算の厳格化

原則として、一般予算はキャンパス毎の収支状況を勘案し、対前年比の削減幅を設定するなど厳格な予算編成を行う。一方、特別加算については事業毎に厳格に検討し予算配分を行う。

②各部署における徹底した予算管理の実施

各予算区分において、一般予算及び特別加算の執行状況について常時把握し、当初予算の範囲内に収束させるよう努めることを求める。また、補正予算編成時点では原則として増額を行わないという方針を堅持する。

③費用対効果測定の徹底

教育研究または管理運営の別なく、学園が行うすべての事業等について、費用対効果を検証・評価する。評価の低い事業等については抜本的に見直しを行う。

④専任教職員の効率的配置

専任教員については、教育の質を維持・向上させるために必要十分な教職員を配置する方針を採る。しかし同時にその質を低下させない範囲で効率的な教員組織を編成し学校運営を行う。また、定年等による退職者（いわゆる自然減）は常に学校運営上の必要性を検討し順送りの人員補充はしない。

事務職員については、事務組織の業務配分見直しを通してより一層効率的な組織作りを検討する。

## 4. 教育環境整備

建物の耐震問題を含め、茨木・豊中両キャンパスのグランドデザインの検討に着手する。

また、教育効果を向上させ、同時に学生・生徒らの学校生活の満足度を高めるために、以下のとおり施設設備等の充実に取り組み、教育環境の向上を図る。

### (1) 茨木キャンパス

①看護学部看護学科設置に係る施設（主に山草館F棟 1階の「地域・在宅看護学演習室」）改修と備品・図書第3期整備（開設2年目）を進める。

②現代食文化学部食マネジメント学科（仮称）設置に係る施設改修と備品・図書の整備を年度計画に沿って進める。

③前年度から進めているキャンパス整備工事の第2期工事として、山草館A棟下の旧スクールバス駐車場跡地のガーデン化工事を実施する。

④図書館においては利用者の利便性向上を目的に、ラーニング commons の第2期整備を実施する。

⑤授業出欠管理システムの充実を図る。

⑥防犯監視強化のため設置している、監視モニターや映像記録装置及び監視カメラシステムの改修・充実を図る。

## (2) 豊中キャンパス

①パソコン教室のオペレーティング・システム更新およびサーバーの更新を実施する。

②中学・高校ともに廊下のシューズボックスを入れ替える。

## (3) キャンパスの安全性向上に向けた取り組み

安全なキャンパス整備の一環として、法定の消防設備点検に取り組むことはもちろんのこと、警報装置等の改修を行う。

以 上

